

## 有珠山の火山活動解説資料（令和2年10月）

札幌管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○活動概況

#### ・噴気などの表面現象の状況（図1-①～④、図2～4）

6～8日に現地調査を実施しました。山頂火口原<sup>アイ</sup>I火口及び昭和新山では、長期的な熱活動の低下傾向が続いています。その他の火口も含め、昨年と比較して活動状況に変化は認められませんでした。

監視カメラによる観測では、山頂火口原からの噴気の高さは火口縁上100m以下で、噴気活動は低調な状態です。

#### ・地震及び微動の発生状況（図1-⑤、図5）

火山性地震は山頂火口原直下で発生しました。地震回数は少なく、地震活動は低調な状態です。火山性微動は観測されていません。

#### ・地殻変動の状況（図6）

GNSS連続観測では、火山活動の高まりを示すような変化は認められません。

---

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ([https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php))でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。  
<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

今回の火山活動解説資料（令和2年11月分）は令和2年12月8日に発表する予定です。

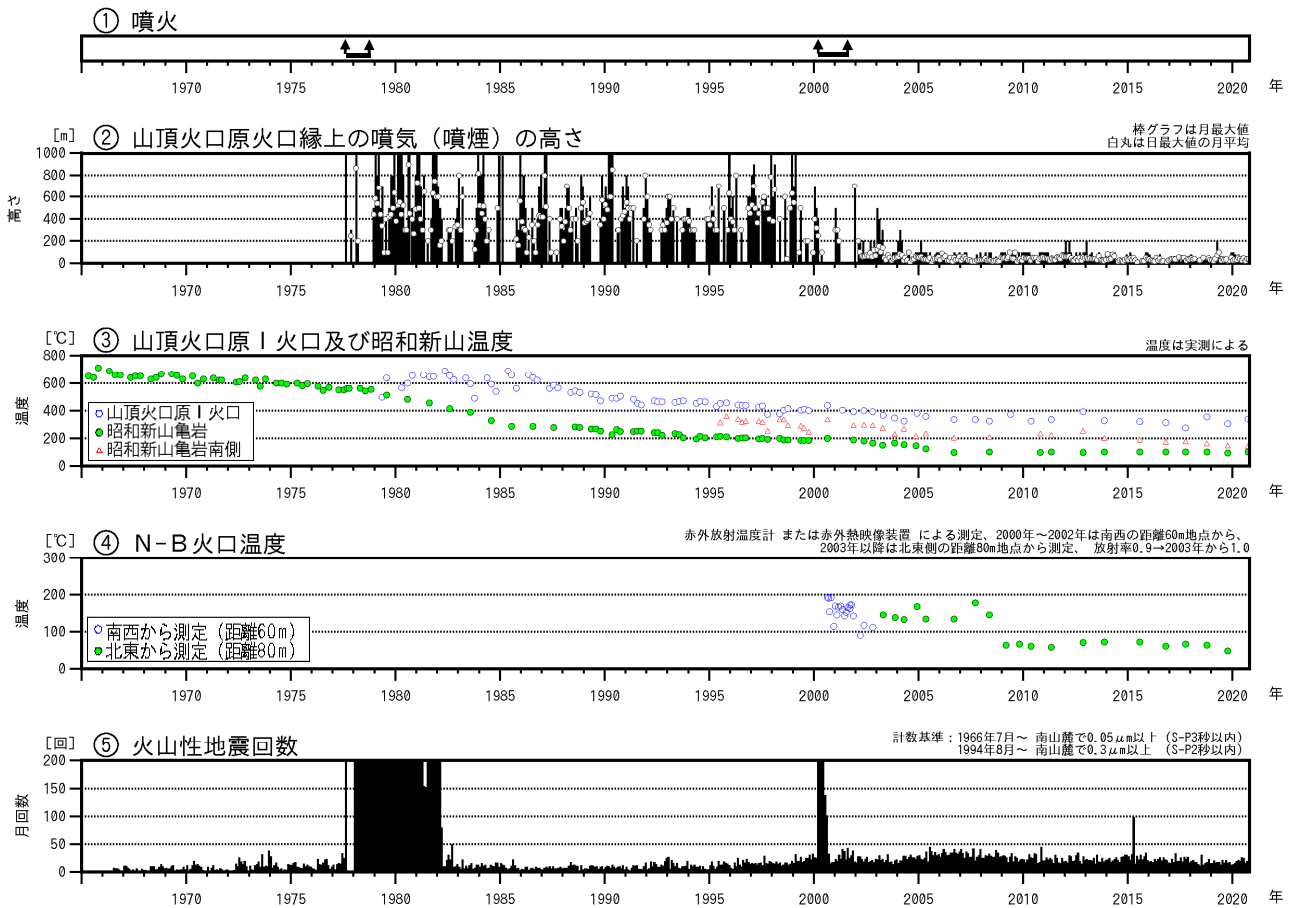


図1 有珠山 火山活動経過図（1965年1月～2020年10月）  
↑印で挟まれた期間は噴火活動期を示します。

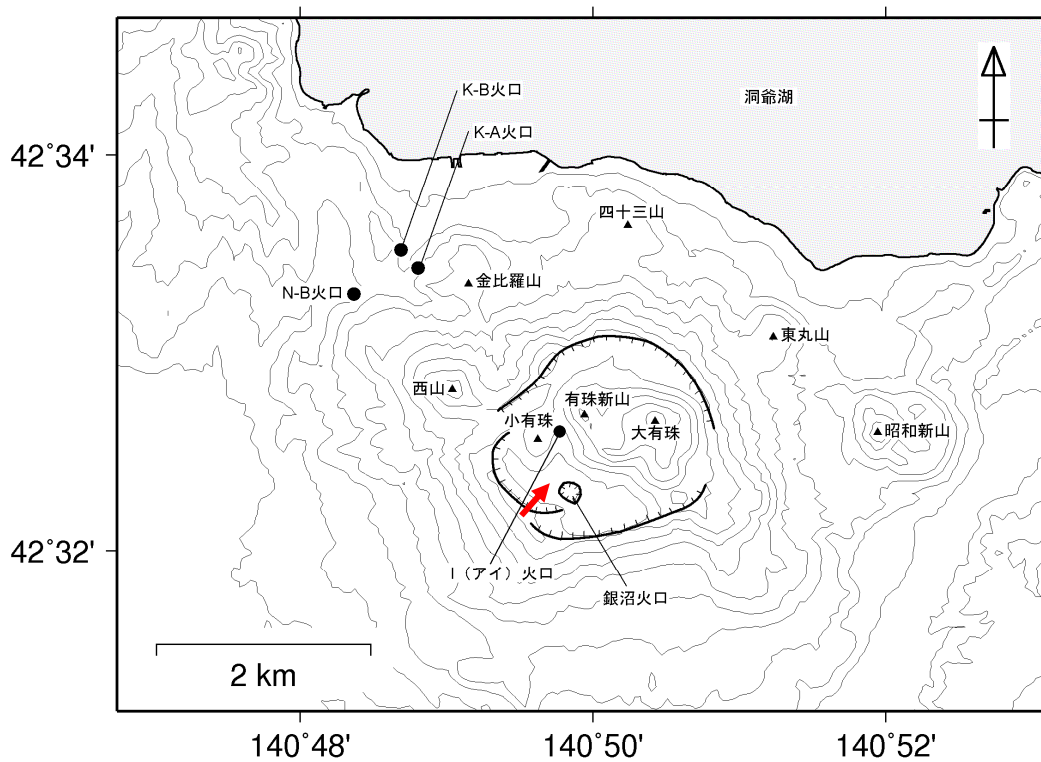


図2 有珠山 周辺図と写真及び赤外熱映像の撮影方向（矢印）

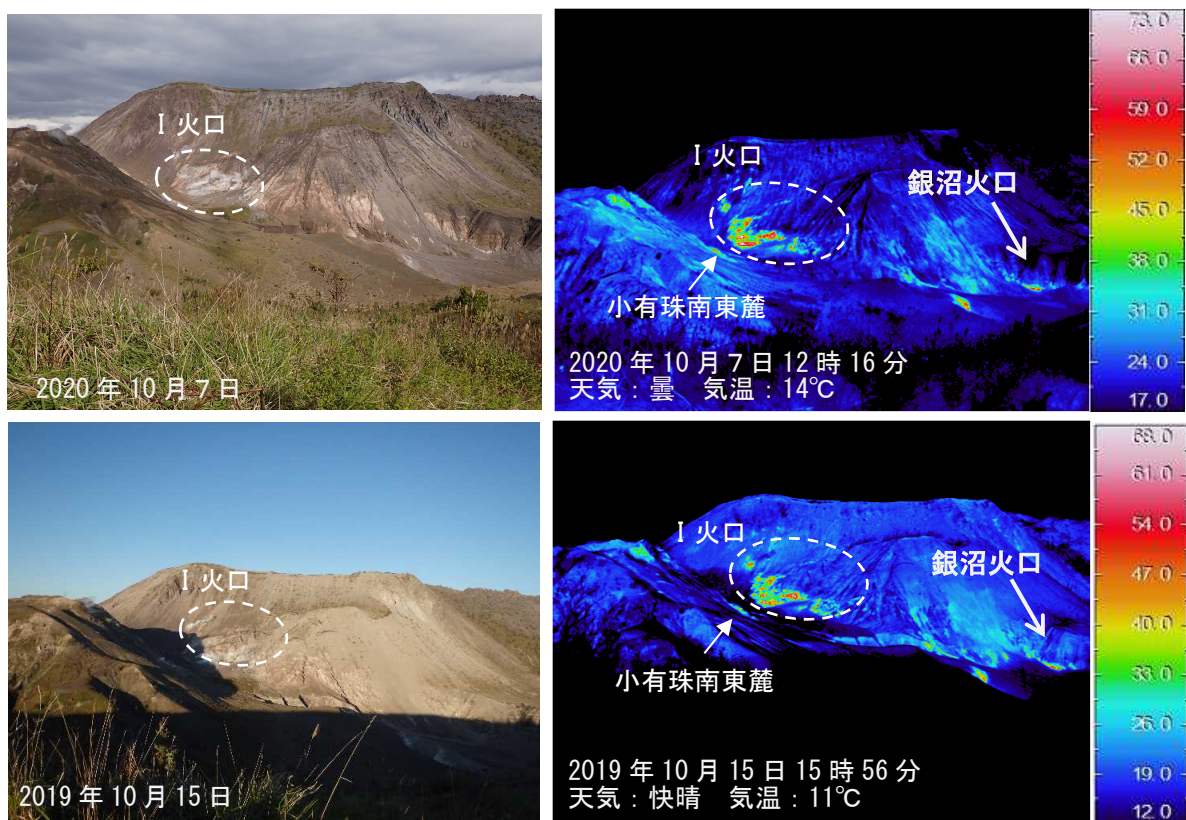


図3 有珠山 赤外熱映像装置による山頂火口原の地表面温度分布

図2の赤矢印から撮影

・前回（2019年10月15日）の観測と比べて地表面温度分布に特段の変化はありませんでした



図4 有珠山 北西側から見た山体の状況（10月28日、月浦監視カメラによる）

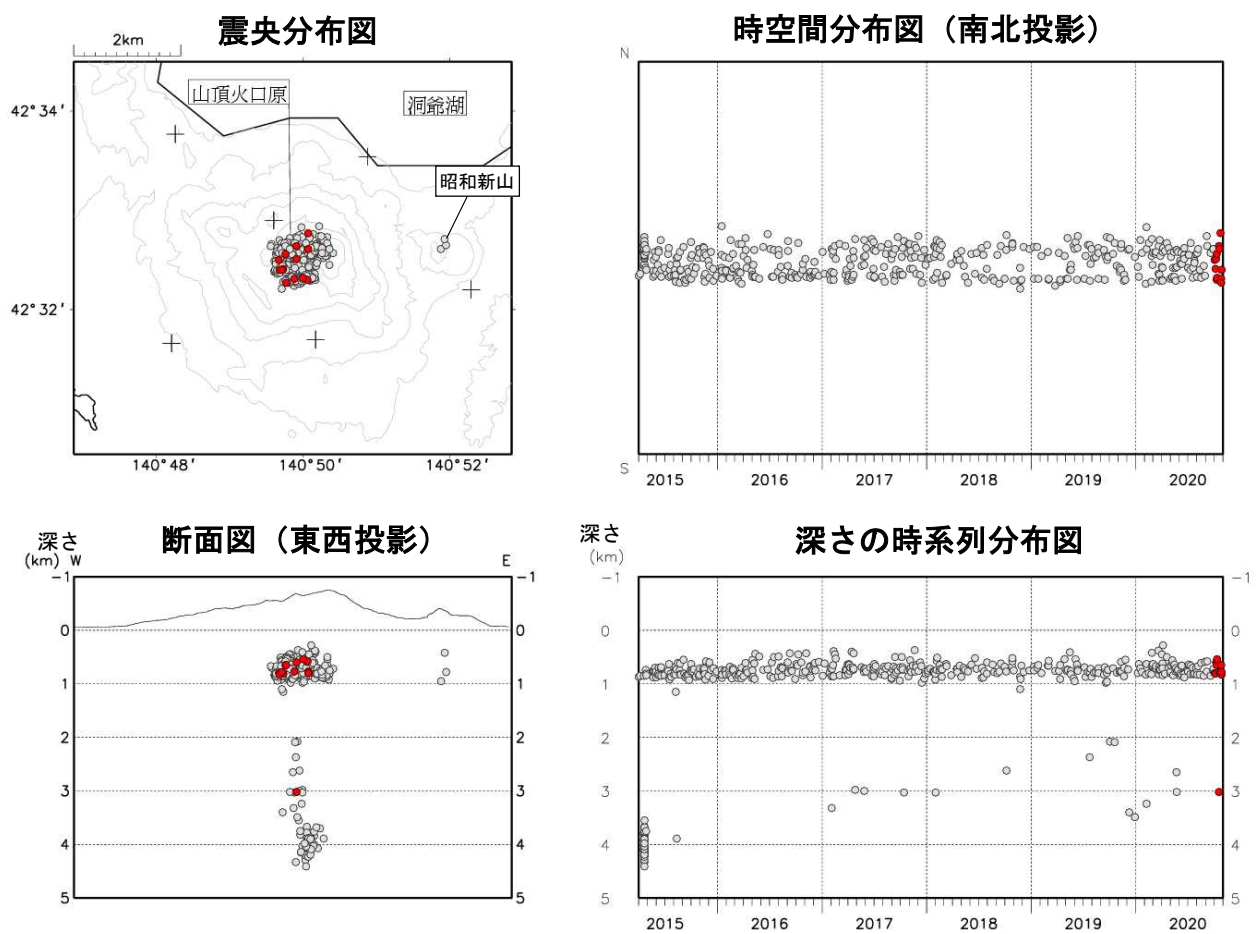


図5 有珠山 火山性地震の震源分布（2015年4月～2020年10月）

●印：2015年4月～2020年9月の震源    ●印：2020年10月の震源  
 +印：地震観測点



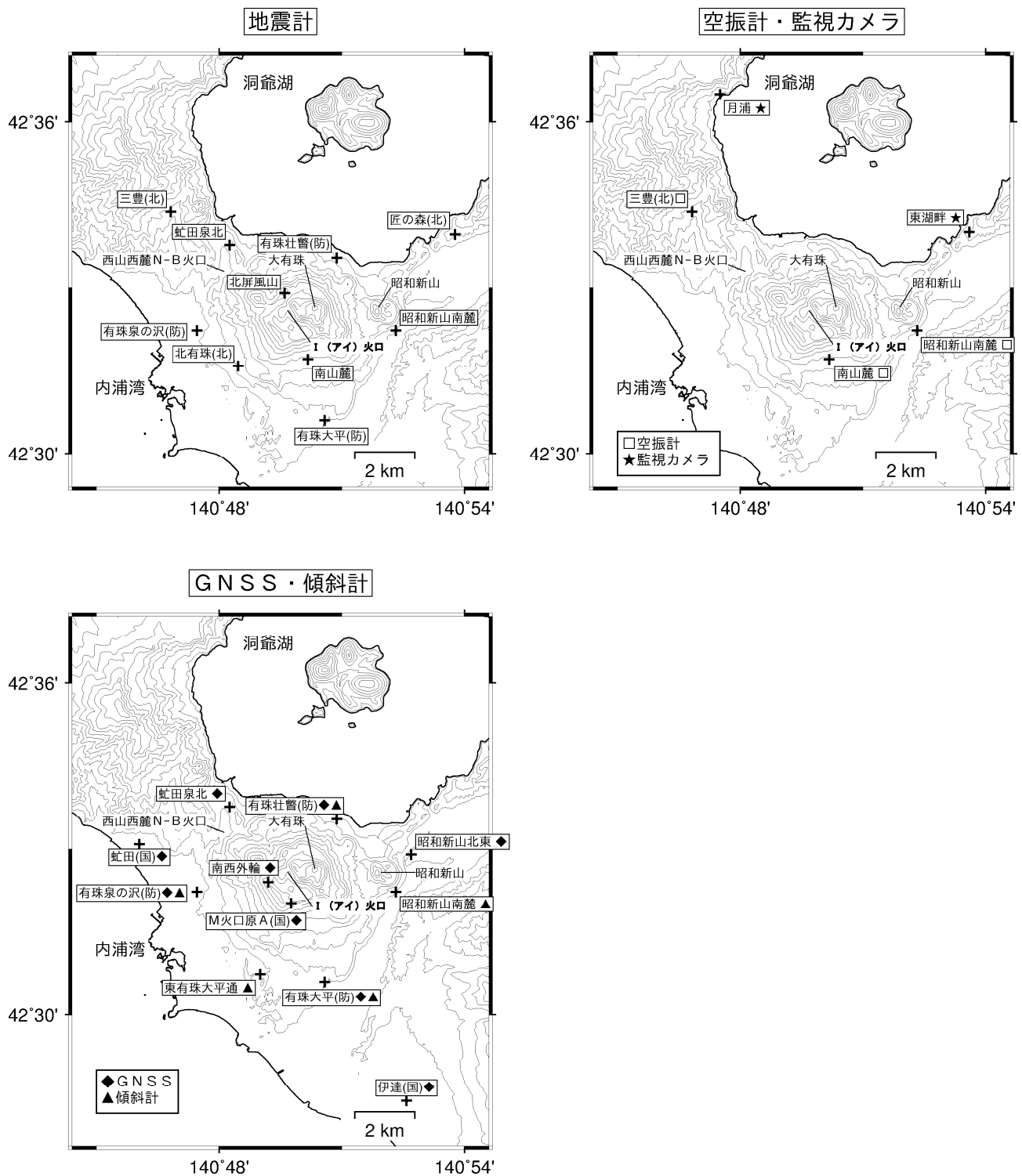


図7 有珠山 観測点配置図

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国) : 国土地理院

(北) : 北海道大学

(防) : 国立研究開発法人防災科学技術研究所